

令和元年度 第2回 赤磐市行財政改革審議会 議事概要

日時：令和2年3月25日（水）午後1時30分開会 午後2時40分閉会

場所：赤磐市役所 2階 大会議室

傍聴人：0人

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 市長挨拶
- 4 協議内容

(1) 第4次赤磐市行財政改革大綱について

事務局： 第3次行財政改革大綱の進捗状況について概要説明。

委員： ・全体の総括があつて、初めて次が考えられる。主要施策5項目に沿って、どういう取組みをしたという実績とやってみて実情に合わないと感じた問題点等、市としての意見をお聞かせいただいた方が次の議論をするにあたってやりやすい。

・無駄を省くのが行革だと、昔から皆さん思っておられるかもしれないが、ずっと行革をやってきて無駄というのはあまり無いと思う。限られた財源を優先的にどう配分するかという視点、無駄ではないがこれよりもっとこっちへお金や資源を投入した方がよいのではないかという観点で行革に取り組めば、カットするところもしやすいのではないか。無駄だと言われると、良い気がしないので難しい。

・7ページの基本方針の7行目からの文章が、『質の高い公共サービスの提供』イコール『行政のスリム化』と読んでしまいがちで分かりづらく、読み取りにくい。

・行財政改革は収入支出をうまくコントロールすることであり、補助事業としてお金を取ってくることも重要だが、どこにどう使うことによって市民サービスをよりレベルアップしていくのかということはすごく重要で、戦略的に考えていかなければいけない視点だと思う。その視点はこの行財政改革の中でどういうふうに位置付けられているのか。

→10ページ③財源の確保に視点については記載があるが、視点の大切さを付け加えたい。

市長： 国は各省庁それぞれ多様な事業を用意しているので、各省庁へ出かけて行って新しい事業メニューはどういったものがあるか情報をくださいという活動を何年もかけて行ってきた。国から直接補助金をとってくるのが、従来の赤磐市に比べかなり深い所で実現ができています。

会長： 今までは、県を通じて国にという流れだったが、これからは国直結というのがたくさんあると思う。国から直接とってくるのが上手いところがあり、そういう市町村は成功しているところが多い。それぞれの省庁の課長へ挨拶に行くことで上手くいくケースが多く、直接人脈をもっていることも大事。また書類の書き方が上手いところとそうでないところがある。文書の書き方や作成の仕方を勉強すると良い。職員の意識では考えが及ばない感じがするので、補助金を国や県からとってくるという内容を充実させた方がよいのではないかと。

委員：・実績が分からないと次にどうやって見直したらいいかというのも見えてこないの5年間の実績を教えてください。冒頭にお配りいただいた市税の収納状況の資料が推移を示していて非常に分かりやすく、こういう効果が現れるということが目に見えて分かるので、大綱自体に5つの領域ごとに評価の基準となるような目に見えて分かる指標を作っていけないか。

会長：・行革なので、やります・やりませただけでは終わらずに、1年ごとの成績表を作ってはどうか。このセクションは何点です、合格点ですと「見える化」すると、励みになるし、さぼってられないというモチベーションにもなるかもしれない。一生懸命したことをみんなに見ていただくことが必要な気がする。

委員：・実績をつくるにあたって、それぞれの担当課に対して財政課がもう少しリーダーシップをとり、どういうことをしてどういう問題があったかなどのヒアリングをすると、自分のしている仕事に対して担当者の意識が高まり、財政課も担当課がどういうことをしているのかということが把握できる。ヒアリングすることが本当の行革の一番大切なところに到達するのではないか。

・これから人口減や地方交付税減など赤磐市を取り巻く環境が厳しくなる中、赤磐市としては、住みよい、住みたい赤磐市という第2次総合計画を実現させるためにも、これからの5年間は非常に大きな意味を持つてくるのではないか。第4次大綱の作成にあたっては、第3次の主要施策の達成状況を検証することがまずは一番大切。もし第3次の主要施策が達成されていたとすると、経常収支比率が92.0%は危機的状況。PDCAサイクルで、Pは良いのができているが、Dは92.0%という数字を見る限り、まだまだ足りない、やるべきことがあると感じる。主要施策の5項目全てを貫いているのは、行政の守備範囲を見直して積極的に民間活力を導入しようという方針。第4次になってもこの基本方針は変わらず、いかに民間活力の流れをつくっていくかがポイントになる。行革で行政サービスが下がるとか現状が変わることへのという不安というものがあり、全体をマイナスイメージとして捉えられがち。そうではなく住民サービスを更に向上するための方策であり、財政が悪化する中で避けては通れない道だということの理解を求めていくことが一番重要。

会長：・基本方針のところに、行革のもつ意味、意義を鮮明にした方がよい。行革のマイナスイメージをプラスイメージに変えるような姿勢を書いていただきたい。

委員：・11ページ受益者負担の見直しのところ、どこを見直したのか、どういう形で進めたのか、実績を知りたい。実際に施設を利用すると、空調までも無料の施設もある。もう少し支払っても良いのではないかとすることがある。

会長：・全市民が使っている、広く皆が利用できるときには、無料でもひとつの施策として理屈がたつが、特定の限られた人に固定化されている場合は、無料というのは整合性があるのか、使わない市民が補う必要に論理的に説得力があるのか。有料化しても、説得するだけの論理があればおそらく理解してくれると思う。無料のところを特に見直してみるのも良い。有料とされているところは、本当にその料金が適切かどうか検討する必要がある。

- ・ひとの問題を真剣に考え、職員の質の向上、何をするにも職員のレベルを上げていただきたい。職員はみんなプロ化され、現場はプロでなければいけない。特に職員の異動について3年のローテーションでは短すぎて、非常に効率が良くない。その人がどういう方向で仕事をしたいのかという希望と、ある程度方向性を定めた上で人事をまわしていき、その中でプロになってもらう。1人が2人分くらい働ける能力をつけていったら、人はそうたくさんいらなくて済むので、そこに行革の意味がある。できるだけ質を上げて有効に長く使う。そういう方向の人事管理というのはできないものか。職員の質的向上を図りながら、効率化・プロ化していく方向で人事を考えると、より人の有効利用が可能になって行革にも繋がる。今までどおりの職員の配置、ローテーションではなく、新しい考えを取り入れれば、ひとと組織の開発にも繋がる。

市長： 民間活力導入に力を入れていて、色々な検討をしている。複合型介護福祉施設は公設民営で非常に上手く活用させていただいている。運営を民間に任せただけで、ボランティアの掘り起しなどそういったところに力を投入できた非常に良い事例だと思う。また、学校給食の調理の民間委託については、粘り強く説得をし、誠意を込めて説明をしてきた。上水道と下水道の民間活用についても検討している。

会長： ・高齢化社会が到来し、退職後の生き方が問われ、健康寿命を延ばすためにも社会参加が重要。市が、積極的に、ボランティア組織を地域に作っていく誘い水を提案し、ボランティア活動を盛んにすることは、地域の活性化にもつながる。

- ・目標の経常収支比率は、現実的にこの数字でよいのかを検討し、目標値をちゃんと作る。

5 その他 事務局： 次回の日程は、会長と調整し、改めて通知させていただく。

6 閉会 会長挨拶